様式1（小・中）

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和５年度学校評価 結果

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	唐津市立相知中学校
1　前年度 評価結果の概要	・不登校対応、教育相談、特別支援教育の領域では環境整備、職員の組織的な対応、他機関との連携など様々な手立てを行った。「困ったときに先生たちに相談することができる」と回答した生徒の割合が昨年より6%増加し、79%であった。信頼関係を紡ぐかかわりを粘り強く行っていることが生徒に伝わっていると考えられる。 ・次年度の展望として、学力向上、人権・同和教育の充実、校則の見直しを行い、生徒の学校生活の充実感、保護者の学校教育への安心感を向上させたい。
2　学校教育目標	**しなやかに生きる力を身に付けた生徒の育成　　～自分らしく・あなたらしく～**
3　本年度の重点目標	**①　いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育を推進する。（すべての教育活動の根幹への位置づけ）** **②　学習評価を指導に生かし、生徒が主体的に学習に取り組むための授業改善を行う。** **③　自ら生き方をデザインする態度を養うため、学校生活における問題解決に自主的・実践的に取組むよう支援する。（キャリア教育の視点）**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研究を踏まえた授業改善	○校内研究を踏まえた授業改善に取り組んだ教員が95%以上	・学習評価に対する研修を深め、学習評価を指導に生かす授業改善の促進を図り、県内の学校に公開する。 ・5月と10月に生徒による教師の授業評価を行い、授業改善を図る。	A	・単元ゴールなど、生徒が先の見通しをもって活動に取り組める工夫や自己評価等を共通実践として全職員で取り組んだ。（実施100%） ・11月を全職員での授業公開月間とし、互いの授業実践から自身の授業改善につなげた。	A	・　生徒は「楽しく学習できている・力がついてきている」と感じているのに、保護者は「十分に学力が身に付いていない」と感じているのは、各家庭で求めている学力（テストの点）に差があるからではないのか。	学力向上担当 指導法改善担当 校内研究担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒が90%以上	・特別の教科道徳の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・人権学習や部落問題学習の授業を家庭・地域や他校に公開する。	A	・道徳や人権・同和教育の授業実践から、生徒の感想や意見を紹介する機会を増やし、自己肯定感の向上を図った。 ・道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を成長させるために役立っていると感じている生徒が95%。	A	・学校であったことを家庭でよく話している」の項目を保護者にもたずねてほしい。（生徒との意識にひらきがあるのではないか）	道徳教育担当 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答する教員が100%。	・年度当初にいじめの認知・覚知について共通認識を図る場を設ける。 ・生徒指導主事を中心に情報共有し、対応の協議を迅速に行う。	A	・いじめの認知・覚知についての基本方針について共通認識の下、指導にあたっている。 ・いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答する教員は100%。	A	・	道徳教育担当 人権・同和教育担当 生徒指導担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や『なりたい姿』を思い描いている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒それぞれの立場での前向きな意思を認め、リーダーシップとフォロワーシップを両立した集団作りを図る。 ・校則の見直しや自販機設置に向けたルール作りなど、学校生活における問題解決に自主的・実践的に取組むよう支援する。	B	・生徒発信で実現できるという前提で指導にあたり、出てきたアイデアをプレゼンという形で情報発信していくことに挑戦させることができている。 ・「将来の夢や『なりたい姿』を思い描いている」について肯定的な回答をした児童生徒が81%。	B	・	学年主任 生徒会担当
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○時間の使い方を改善している生徒80%以上	・家庭での時間の使い方に留まらず、学校生活においてもタイムマネジメントを意図した指導を継続する。	A	・長期休業中に「一日の計画・反省」についてタブレットで振り返りをし、それを担任と共有し、すぐにフィードバックする体制を提案できた。 ・時間の使い方が昨年度と比べて効率的になったと回答した生徒は84%。	A	・給食を試食させてもらったが、育ち盛りの中学生たちには少し物足りないのではないかと感じた。給食費の関係もあると思うが、料理の品数など、もう少し充実させてもらいたい。勉強が苦手でも「給食が楽しみ」と毎日学校へ通う子も応援してあげたい。	学年主任 食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○昨年度より時間外勤務を減らすことができた教員を70%以上にする。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・年次休暇取得の推奨	B	・学校閉庁日の設定等により、計画的に年休取得する体制を推進できた。 ・担当する業務量に偏りがあり、計画的に年休取得ができる職員とそうでない職員に差があったことが今後の課題。	B	・生徒はすでにスマホをもっている子が多く、手軽さから考えても「タブレットで勉強しよう」という意識よりも先にスマホを手にしてしまうのではないか。授業ではタブレットを用いて学習しなくてはならないのに、基本的な正しい使い方から指導するのでは、先生方も大変だろう。	教頭 教務主任

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	○SDGs～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開	○「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒80%以上	・総合的な学習で、SDGsの視点から日常生活を見直した実践を行う。	A	・「持続可能な社会を創るための取組について考え行動している」生徒は83% ・環境問題だけでなく、社会や学校全体での動きに対して、「自分には何ができるか」を考える意識が高まった。	A	・少子化の影響で変化していくのは仕方がないが、部の数が少なくなっていくのは寂しい。必ずしも部活動という形でなくてもよいので、将来「やってみてよかった」とか「続けていてよかった」と思えるような経験の場を与えられたらよいと思う。	学年主任
○特別支援教育の充実	○生徒、保護者のニーズに応じた教育活動の展開	○特別支援学級の生徒、保護者の学校教育に対する満足度80%以上	・特別支援教育コーディネーターを中心に、全職員で適切な教育環境をつくる。 ・教職員、保護者の情報共有を密にしながら、生徒の個に応じた成長を促す。	A	・特別支援学級の生徒への対応にとどまらず、通常学級での授業や学校生活のあらゆる場面で必要となるユニバーサルデザインについて全職員で研修した。	A	・	特別支援教育 コーディネーター

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・不登校対応、教育相談、特別支援教育の領域では環境整備、職員の組織的な対応、他機関との連携など様々な手立てを行った。「困ったときに先生たちに相談することができる」と回答した生徒の割合が昨年より1%増加し、80%であった。信頼関係を紡ぐかかわりを粘り強く行っていることが生徒に伝わっていると考えられる。 ・次年度の展望として、学力向上へ向けて、その基礎となる学習集団作りのために人権・同和教育の充実を図る。職員、生徒の人権意識を高め、共感的理解をもって互いを尊重し合う風土を醸成し、学校生活の充実感、保護者の学校教育への安心感を向上させたい。